

体験格差解消を目指す  
水辺の自然体験の推進事業

2020 年度 事業報告書

2021 年 3 月  
B&G 財団 企画課

○目的・実施背景

子供の頃の自然体験活動は、興味や意欲、自尊感情の向上などのほか、学力にも良い影響があるだけでなく、青年期や成人期の自己肯定感にまで影響を及ぼすことが最新の研究で明らかとなっている。一方で、障害児や児童養護施設の子供たちは、身体的や家庭的な理由で体験の機会が少ない状況にあり、「体験格差」が指摘されている。この「体験格差」の解消を図るため、全国に設置した B&G 海洋センター・クラブにおいて、困難な状況にある子どもたちを対象に、カヌーや SUP をはじめとする海洋性レクリエーションのほか、水遊びを中心とした活動機会を提供し、水に親しむきっかけを作る。

○当初計画と実績

	当初計画	実績
期間	通年	1月～3月
内容	①水に不慣れな子供たちでも楽しめる 水辺のレクリエーション器材の支援 ②レクリエーション器材を活用した 水辺の体験会の実施	新型コロナ感染対策備品の支援
助成額	上限 150,000 円/1 海洋センター	上限 50,000 円/1 海洋センター
対象経費	水辺のレクリエーション器材の購入費	感染対策備品の購入費
実施カ所	新規実施する海洋センター・クラブ 30 カ所	継続実施する海洋センタークラブ 31 カ所 ※
対象	障害児・児童養護施設の子供等 900 人	

※継続実施センター全 40 カ所のうち、希望したセンターは 31 カ所。

残り 9 カ所は、各自治体内で既に類似の整備を行っているため、希望しなかった。

表 「新型コロナ感染対策備品支援センター・クラブ一覧 31 箇所」

支援年度	NO	県名	センター・クラブ名
2018 年度	1	兵庫県	南あわじ市南淡海洋センター
	2	大分県	竹田市直入海洋センター
	3	熊本県	湯前町海洋センター
	4	鹿児島県	与論町海洋センター
	5	新潟県	胎内市中条海洋センター
	6	石川県	穴水町海洋センター
	7	静岡県	掛川市海洋センター
2019 年度	8	北海道	石狩市海洋センター

9	青森県	弘前市海洋センター
10	秋田県	由利本荘市西目海洋センター
11	神奈川県	HONKIuniversity 海洋クラブ
12	長野県	大町市海洋センター
13	愛知県	新城市作手海洋センター
14	山口県	周防大島町海洋センター
15	香川県	池田海洋クラブ
16	愛媛県	松山市中島海洋センター
17	佐賀県	太良町海洋センター
18	長崎県	南島原市加津佐海洋センター
19	宮崎県	トトロ海洋クラブ
20	鹿児島県	錦江湾海洋クラブ
21	北海道	大樹町海洋センター
22	茨城県	龍ヶ崎市 USC 海洋クラブ
23	山梨県	南アルプス市白根海洋センター
24	兵庫県	伊丹海洋クラブ
25	島根県	江津市桜江海洋センター
26	徳島県	高松市国分寺海洋センター
27	熊本県	玉名市岱明海洋センター
28	茨城県	土浦海洋クラブ
29	島根県	浜田市三隅海洋センター
30	富山県	富山市八尾海洋センター
31	福岡県	築上町築城海洋センター

#### ○新型コロナウイルス感染拡大の影響

2020年度は、新規実施センター・クラブの募集時期が新型コロナウイルス感染拡大と重なり、当初計画の通りには進まなかった。

当時は新型コロナに関する事例の確保が不十分であり、感染経路もわからず、対策できない中、格差解消を推進することは困難であった。特に、障害児は既往症と合併症を引き起こす恐れがあることから感染リスクが高いとされ、通常であれば、子どもたちの参加を促す保護者や施設スタッフ等が消極的になった。また、以前まで「実施したい」と回答していた海洋センター・クラブも、感染拡大の状況を鑑み、今年度の申請を断念

し、2021年度に申請を行う予定となった。

感染状況には多少の地域差があるが、日本全国がほぼ同じ状況であり、次年度も引き続きコロナ禍であることが予想されることから、希望する継続実施ヵ所には今年度の予算を活用し、以下の感染対策備品を支援した。次年度はこれらを活用し、感染リスク低減を施しながら水辺の自然体験会を実施し、体験格差の解消へ取り組んでいく。

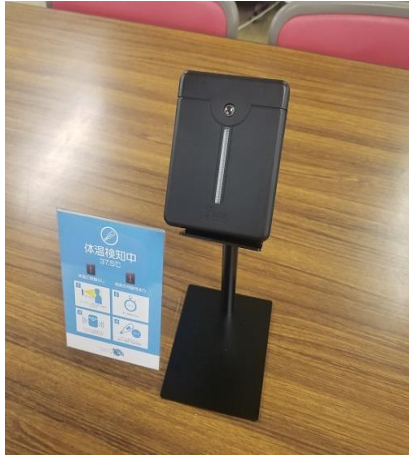
また、新規実施センターには、継続センターと同様に、支援内容へ感染対策備品を追加することで同様の支援を行えるように、支援内容の見直しを図った。

子どもたちは新型コロナによって、さらに体験活動の機会を失っている。そのため、全国の海洋センターを活用し、安心安全に水辺の自然体験の機会を提供し、格差の解消を図る、この取り組みはより重要なものとなっているのではないかと。

今後も、B&G財団では全国の海洋センター・クラブと連携し、水辺の自然体験活動の機会を、家庭的・身体的・経済的な困難によって体験機会の少ない子どもたちへ提供する体験格差解消に取り組んでいく。

○支援備品

センター利用者を検温する  
非接触型体温計



更衣室の密を避ける一人用テント



利用する器材を清潔に保つ  
消毒スプレー・スタンド等



指導時の飛沫感染を防ぐ、  
拡声器、電子ホイッスル、スポーツマスク等







○過去の活動写真（参考：2018~2019年度）

・ウォーターマット

・メガSUP



・水上トランポリン、スライダー

・アクアロール



・浮き島

・アクアボール



・カヌー体験

・SUP体験



以上